

工業集積地の変化に対応し、独自製品の開発・製造に転換した中小企業

長野県諏訪市の株式会社松一（従業員7名、資本金1,000万円）は、加工の難しい脆性材や難削材の微細な切削等を得意とする中小企業である。1925年に創業し、諏訪地方に拠点を置く大手時計メーカーの下請として、時計の文字盤等の部品の組立や加工の事業を営んでいたが、そうした事業を通じて培った微細な切削の技術を活かし、現在では、自社製品の開発・製造や、大学や企業の研究者等から試作品の製作を受注するなど、取引先を広げている。

同社のある諏訪市は、歴史の長い工業集積地の一つであり、戦後は、大手時計メーカーを中心として時計やカメラなど精密機械工業が隆盛した。しかし、1985年のプラザ合意後に円高が大幅に進み、大手時計メーカーが量産の拠点を海外に広げるなど、諏訪市の工業集積地にとって大きな試練が訪れ、地域の中小製造業者はコスト削減や技術力の強化等に取り組んでいった。こうした中、同社は、それまで他社が手掛けていなかったような加工の難しい脆性材や難削材の微細な切削に対する挑戦を続け、同社独自の超精密加工機の開発に成功した。同社の超精密加工の技術力は、例えば、石英やサファイアのような脆い材料に、ねじ切りをしたり、溝加工や3D加工を施すことを可能としたことから、高い精度で加工された試作品を必要とする最先端の研究者から高い評価を得ており、口コミによって、受注が広がった。

同社は、経営環境が大きく変化する中、下請事業者として培った技術力を活かしながら、下請から独自製品の開発・製造へと事業の転換を図り、新たな環境への適応に成功した好事例といえよう。

